

22th 全国曹洞宗青年会

SOUSEI

185
2019.05

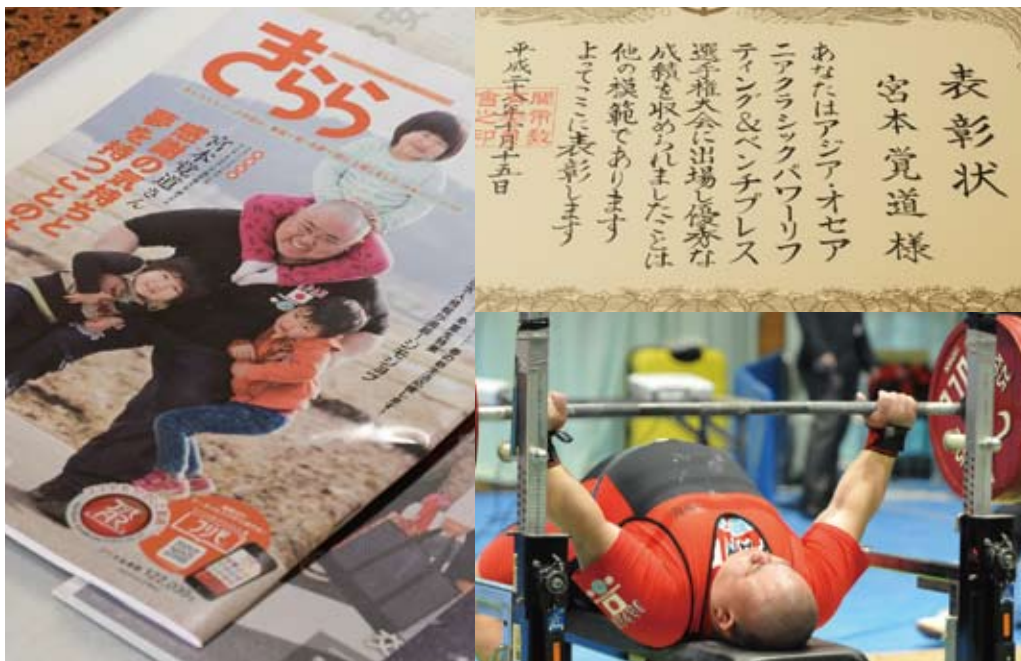
未来のために仏性をはぐくむ



未来のために 仏性をはぐくむ

ぶっしよう

曹洞宗では子どもの感受性を伸ばし、子どもたちが本来持つ「仏性」を育むため、様々な取り組みをしています。スマホゲームやSNSが社会に浸透した現在、人と人とが顔を合わせるこのような取り組みは、かえって価値を増しているように思えます。今回の特集冒頭では、子どもに夢を持つ大切さを伝えるために、「園長先生は世界一の力持ちになる」と宣言してパワーリフティングに取り組み、「子どもへの想い」を実践されている岐阜県龍泰寺住職の宮本覚道師にお話を伺いました。



「パワーリフティングに取り組むことで、様々な学びを得ることができた」

一生懸命に頑張れば、

自分を好きになり、誇れるようになる

最初に、宮本さんが園長を務められる「あかつき幼稚園」の教育理念でもある、「報恩感謝」についてお聞かせください。

宮本師／「報恩感謝」という教育理念を具体的に申しますと、「ありがとうの気持ちを持たない」「皆で助け合う」「自分で決めたことは最後までやり抜く」と考えています。

「報恩感謝」の説明がこの3つに分かれているのは、私が仏教を3つの側面から捉えているからです。仏教とはまず命の無常から始まるものです。そして命というのは、3つの側面から考えることができます。

第1に、命というのはご先祖様からいただいたもの。第2に、命は一人では生かすことができない。そして第3に、命は必ず尽きる、ということ。

命は親からいただいたものですので、その恩に報いていく生き方が「報恩」ということになります。そうすることで親からこの命をいただけたことがいかに有難いことか、幸せなことか気づくのです。そして人間は一人では生きていくことができない、様々な人に支えられている。その恩に気づき、周りの方が喜んでくれるような生き方こそが幸せなのだ、ということ。また、命はいつか尽きるのですけれども、尽きるということが分かっていれば、今こうして生き

ていることがいかに有難いか。今を生きていることがいかに大事か。こうした生き方ができることへの喜びが感じられる。

3つ目の「命は尽きるものだからこそ、今を一生懸命に生きよう」ですが、子どもたちに質問された時、これについてうまく答えることができませんでした。長い間どう答えたら良いか考えていたのですが、最近思いついたことがあります。

パワーリフティングを始めたとき、色々なことを言われました。「お前そんなことやらずに、お寺のことをきちんとしろ」とか「幼稚園に集中しろ」とかですね。結果が出るようになって、あまりそういう声も聞こえなくなりました。最終的には日本チャンピオンになったときに、何が一番嬉しかったかというと、これだけの批判がありながらも一生懸命頑張ったことで、自分を誇れるようになったことです。一生懸命に頑張れば、自分を誇れるようになる。そうすると自分のことが好きになるよ、と子どもたちには話すようにしています。

—そこまでして子どもに伝えようと努力されるのは、なぜでしょうか。

宮本師／子どもの疑問というのは、本当に素直なものです。素直な疑問に答えない大人って何なの、そんな気持ちを子どもに抱かせた時点で、心が通えなくなるのかなと思います。

岐阜県 龍泰寺住職

宮本覚道師



目の前の人に真摯に向き合い、
大切にすることがこの世の真理

—宮本さんにとって、相手に真摯に向き合うことは大変重要なことなのですね。

宮本師／一番大切だ、と思います。ある本によると、世界で2000年以上読まれている本は2冊しかないそうです。それは『聖書』と『論語』です。どちらの本でも何度も強調されている教えがあり、聖書では「汝の隣人を愛せよ」、論語においては「それ恕か」です。思いやりの心を持ちなさい、という意味です。また、仏教には「布施」の教えがあり、これは「相手が喜ぶことをすること」です。そういったことを考え合わせると、目の前の人を大切にすることがこの世の真理なのかなと思います。

—子どもと真摯に向き合うため、宮本さんが考えたのがパワーリフティングでした。なぜでしょう。

宮本師／第1に、子どもでも分かりやすいということ。子どもにとって「すごい」と感じられるような達成とは何か。色々考えましたけれども、結局「力持ち」か「足が速い」くらいしかないと感じました。アメフトをやっていたものですからパワーリフティングにも馴染みがあり、また身体を鍛えるのが好きだったので、もしかしたらこれなら

自分にも可能性があるんじゃないかなと。

—ですから、ひたすら分かりやすさという観点からパワーリフティングを選んだということですね。

—パワーリフティングを始め、日本チャンピオンという結果も出されたわけですが、子どもの反応はどうだったのでしょうか。

宮本師／それはやはり見る目が変わりましたね。「この人ほんとうにすごい人なんだ」というふうには。岐阜県で1番というだけでもびっくりされましたけど、東海地方で1番、日本で1番、さらにはアジアで1番となったものから「どうなってるんじゃない」とびっくりしてくれました。子どもたちが私の話しを聞いてくれるようになりましたね。パワーリフティングを始めて良かったとつくづく思いました。

借り物の言葉では、
子どもたちに伝わらない

—パワーリフティングを始めるきっかけとなった、「子どもたちと真摯に向き合わなくてはならない」と思った経験についてお話しください。

宮本師／当初、子どもたちへのメッセージを口だけで誤魔化そうとしていたんです。それで良いのかと疑問を持ったことがきっかけですね。

幼稚園の先生になりたての頃、子どもたちに「大きな夢を持ちましょう」と教えていました。日本の教育界全体がそうでした。園長になったばかりの祝辞で、「大きな夢を持ちましょう」と子どもたちに伝えたところ、そのあとの謝恩会で、子どもに「先生、夢って本当に叶うの？」って訊かれました。私はすぐには答えられず、そこで絞り出したのが、「たぶん『夢は叶うもの』ってシドニーオリンピック金メダルの高橋尚子選手が言ってたよ」だったのです。他人の言葉を借りたわけですね。それに対してその子どもは、「先生自分で夢叶えたことないのでそんなことが言えるね」って顔をしたので

す。
やはり、勉強しただけ、人から聞いただけ、読んだ本から借りただけだったら、子どもたちには伝わりません。「自分は夢を持ったことがないので、夢を語る資格がないのでは」。そう思いました。他の人にも相談しましたけれど、はかばかしい答えは返ってきません。もちろん、「子どもたちに夢という選択肢を与えるのが重要だ。それが先生の役割だ」という考えもあります。けれども、それは先生の役割であつても、大人の役割ではないように感じました。
やはり自分が夢を持ってそれを追いかけて、苦労しながらも夢を叶える姿を見せなくてはいけない。その思いからパワーリフティングを始めました。



素直で正直な心、 自分を信じる心を育みたい

—「夢」を持つことの重要性について、どうお考えでしょうか。

宮本師／「夢」というより、「やりたいこと」と言い換えた方が正確ですね。「夢」というのは、職業じゃないですから。どうありたいのか、ということなんです。「どうなりたいの？」と問いかけた結果が「人の役に立ちたい」のであれば伝わったような気がします。

私は「夢を追う」大切さを教えることで、「素直で正直な心、自分を信じる心」を育みたいと思っています。それを仏性と表現しても良いかもしれません。「ありがとう」と思ったら「ありがとう」と答え、「ごめんなさい」と思ったら「ごめんなさい」と返す。そんな心の中には「自分を信じる心」も入っているのかなと思います。

—幼稚園でも面白い実践をされていますね。「**鯨育**」という試みをされていますが、これはどういうものでしょうか。

宮本師／「あかつき幼稚園」では、私自身、畑が好きなこともあり食育に取り組んでいます。幼稚園の畑で子どもたちが自分で植えて、自分で育てて、自分で収穫したものをいただく。野菜も私たちと同じ生き物、同じ命なのだから、有難くいただくこうと伝

えています。そんなふうには生きている流れとか、連鎖を伝えていました。でも、子どもたちにとって野菜は野菜なんですよ。野菜は生き物ではないのです。では実感を湧かせるにはどうしたら良いか。魚介類なら生きていて反応がありますね。最初はマグロ、その次は鯛、その次はエビをいただきました。包丁を入れてしばらくすると、それらは動かなくなってしまいます。その過程を見て、子どもたちに同じ命をいただいているんだよ、と伝えることができます。食べなければ人間は生きていくことができないんだと。

—さて、最後に仏教が教育に取り組む意義について教えてください。

宮本師／私が最終的に行き着いたのは、冒頭でもお話しした「報恩感謝」なのですが、すべての事柄が教育につながっている必要があると感じます。

うちの幼稚園では坐禅の時間があり、「話を静かに聴く」ということを教育しています。その時に3つの報恩感謝の説明をしています。そんな静かな時間を持つことはありがたいですね。

—ありがとうございました。

文／広報委員 田ノ口太悟
写真／広報委員 菅 悠生

仏性をはぐくむための青年僧侶の活動

近所のお寺で一日参禅

広島県尾道市／西金寺

広島県尾道市の西金寺は地域の会社と連携し、「郷土での学び」をテーマに一日修行体験会を開いています。体験会では坐禅は勿論、食事作法や作務も体験します。尾道市は日本遺産に選ばれたこともあり、若者を

中心に郷土の魅力を見直す風潮が高まっています。その影響もあり、身近な学びを求める20代から30代の方が多く参加されています。

お寺だつて住めば日常

『禅のある暮らし』と題したこの会では、如何に我々僧侶の作法が日常に溶け込んでいるかを学びます。参加者は仏教の勉強がしたいわけではありません。禅僧の生活スタイルを、どう自分の日頃の生活に活かせるかを学びたいのです。

街で見かけたことがあるお坊さんと一緒に、近所のお寺で食事をいただき、作務をし、坐禅を組む。その中になんか精神があるのか、参加者の日常の延長にある近所のお寺を通して、自分の今の日常について自問自答の機会を持つわけです。

学んだことを一般家庭の生活に活かしたい方達にとって、あまりにも非日常すぎる経験は、自分の日頃の生活と結びつけることが出来ません。身近な「近所のお寺」だからこそ、これから生きる日常を見据え、できる事があるのではないのでしょうか。



地域の方と子ども禅のつどいを開催

北海道帯広市／永祥寺

北海道帯広市の永祥寺では夏休みの思い出作りの1つとして「子ども禅のつどい」を開催しています。禅や寺院に親しんでもらうばかりでなく、「地域の大人が協働する姿」を子どもたちに見てもらうことを大切にしています。

地域に愛される実感を

昨今、子どもが巻き込まれる凄惨な事件が後を絶たず、子どもを傷つける大人の多いことに社会全体が胸を痛めています。永祥寺のある町内会には子どもがいる世帯の加入が進まず子ども会は消滅しました。地域の子どもと大人との関係性が希薄になり、子どもの安全を守るために「知らない大人に付いて行つてはいけない」との指導がなされること自体は仕方のないことではあります。身近な大人が信頼するに足らないならばその集合体である「地域」も信頼されず愛着を持たないまま育っていくことに繋がってしまうのではないのでしょうか。

子ども禅のつどいの体験プログラムには様々な職種の方がご協力くださいます。釘を使わないで木材を組み上げる宮大工体験や境内での熱気球の搭乗体験など、大変な準備と後片付けを要するものもあります。

こういった子ども

の喜ぶ姿を見た

一念で集まる

大人達の、労

を惜しまない

姿を目の当たり

にする体験が「地

域の大人たちに愛

されて育つた」思い出と

して残つてくれることを願っています。それは多忙な生活にあつても利他心を忘れな

いという心の育みであるからです。



緑蔭禅に関するアンケート集計

全回答数45件

①・・・緑蔭禅をやっていますか？
(「はい」が100%)

②開催する時期はいつ頃ですか
(グラフ参照)

③どのような日程で行いますか
(グラフ参照)

④どのくらいの頻度で行いますか
(グラフ参照)

⑤どのような場所で行いますか
(グラフ参照)

⑥坐禅は一日にどのくらい行いますか
(2回が29%で最多)

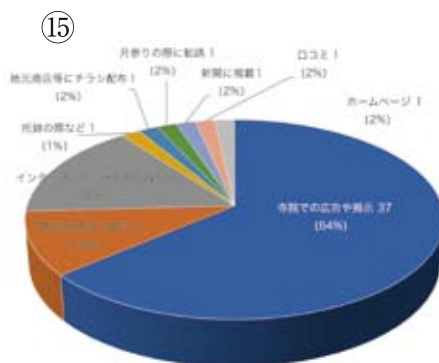
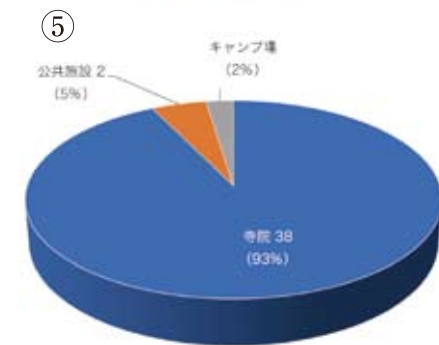
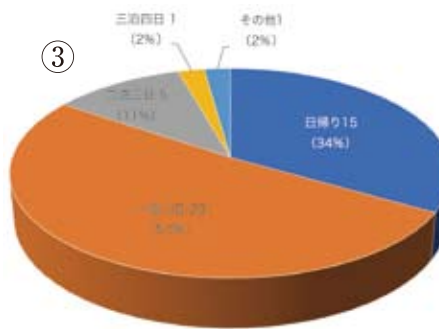
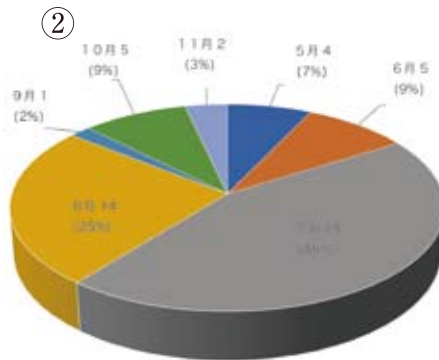
⑦坐禅はどの時間帯で行いますか
(朝が38%で最多)

⑧参加者の対象は
(小学生が45%で最多)

⑨坐禅以外で行うことは
(法話、写経、精進料理体験、ヨガ、野外活動、体験学習、花火、DVD鑑賞)など

⑩体験学習の具体的内容は
(ヨーグルト作り、ガラス作り体験、写仏、曼荼羅制作、草木染め、木工体験、パルーンアート、ビー玉ペンダント作製、紙芝居、押し花絵はがき作製、凧上げ、塩作り、切り絵、音楽ワークショップ、数珠作り、墨絵体験、ビーズプレスレット作り、御守り作り、太極拳講座、簡易坐蒲作り、新聞紙エコバッグ作り、豆腐作り、草鞋作り、切り紙、プリン作り、キャンドル作り、竹とんぼ作り、キーホルダー作り、漆塗り箸体験、スイカ割り、大筆で一字書き体験、そば打ち体験、笑いヨガ(ラフターヨガ)、線香作り、まが玉作り、にぎり仏作り、風鈴作り、箸作り、折り紙、パントマイム、御詠歌、阿波踊り体験、紙飛行機作り、和紙作り)など

⑪野外活動の具体的内容は
(肝試し、ザリガニ釣り、流しそうめん、グランドゴルフ、ドッジボール、山歩き、スイカ割り、ボウリング、ハイキング、川遊び、海水浴、キャンプファイヤー、竹灯籠イルミネーション、バーベキュー、水泳、カヌー、プラネタリウム、水族館、プール、遊園地など)



⑫参加者の食事は精進料理ですか
(いいえが53%で最多)

⑬食事は参加者が調理しますか
(いいえが80%で最多)

⑭参加者に保険は掛けていますか
(はいが79%で最多)

⑮宣伝はどのように行っていますか
(グラフ参照)

⑯参加者の人数はどのくらいですか
(50～60人未満が25%で最多)

⑰参加費はどのくらいですか
(2000円～3000円が最多)

⑱スタッフの人数は何人くらいですか
(20人程度が31%で最多)

⑲僧侶以外のスタッフはいますか
(寺族が46%で最多)

⑳僧侶以外の協力者の存在
(調理補助、お風呂や着替えの補助、食事の準備、調理、片付けの手伝い、太極拳などの専門外の体験学習、流しそうめん、おやつ準備、海水浴の着替えの補助、体調が悪くなった子供の面倒、レクリエーション、子供たちと遊んでもらう、女性参加者のための女性スタッフ、プールの付き添い、女子更衣室の確認、主に女子児童関係をお願いしている、介護の補助など)

㉑曹洞宗以外の団体等と共催していますか
(いいえが90%で最多)

㉒今後の課題や不安に感じている事
(食中毒などの衛生面、開催時期、女性スタッフの手配、移動や旅行方法の兼ね合い、子供の集まり不足、マンネリ感、開催できる寺院に限られてきている、住職の高齢化、後継者不足、参加費、人数調整等に課題がある、次世代へのアプローチ、青年会員の減少、眼蔵会講師の体調、教育現場との指導内容の食い違い、告知方法、開催時期、参加者の年齢層、悪天候、入浴場所の確保、開催寺院の負担、食物アレルギーの増加、参加者の激増、参加者の多様化、僧侶などのスタッフの減少、費用の問題など)

禪 蔭 緑 考 察

様化のほか、親世代の仏教に対する信仰の希薄化など現代仏教の抱える諸問題がその原因の一端にあると感じました。

また、スタッフにも人手不足が見られ、特に女性の手伝いの大事さが顕著に表れています。提供する食事作りや女性参加者の補助など、こちらも昔とは違い特に配慮していかなければいけない部分なのだと思認識しました。

ここ半世紀で子どもの遊び方は劇的に変化しました。公園で元気に遊び回る子どもを見ることも少なくなり、内や外でもゲーム機で遊ぶことがその主流となっています。自然に触れ、仏性に触れる、そんな緑蔭禅はこれからの時代益々その必要性は高まっていくと思います。どの主催団体もいろいろな不安を抱えているところではあるようですが、参加人数が少なくなったとしても規模を小さくしてやり方を見直しながら、また現在開催されていないところであつても、小規模でも開催する意義はこの先遠い未来を見たときには大きなものとして残るのではないかと思ひました。

今後はこの緑蔭禅をいかにしてより良く存続していけるか引き続き全曹青でも研鑽を重ねていきたいと思ひます。

アンケートにご協力いただいた皆様ありがとうございました。

文／教化委員長 近藤真弘

今期はじめに加盟曹洞宗青年会の皆様へ緑蔭禅についてのアンケートを実施し教化委員会でご覧をしてみました。まず思うところが、緑蔭禅を開催している団体が約4分の3もあり、この数には正直驚きました。内容を見てもみると、坐禅はもちらんのことではありますが、伝統を感じるものから時代に合わせ新たなことに取り組むものなどの多様性があり、またヨガやモノづくり、時期よつての川遊びや肝試しなどの催し物に各主催団体での工夫が感じられました。

『ナムナムぬりえ』の利用感想等から見えてくるもの

『ナムナムぬりえ』は子ども向けの教化資料として、核家族化などにより子どもが寺院に足を運ぶ機会が減る現在、仏教諸行事への理解を深め、教えに触れることで心豊かな成長への一助となればと制作しました。

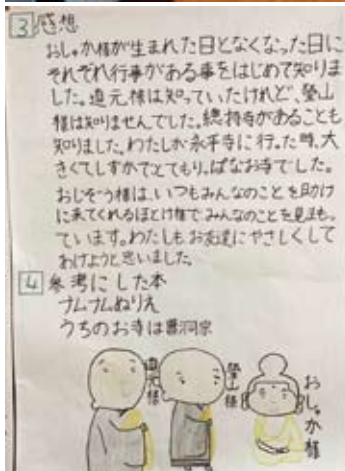
頒布開始よりかわいらしいぬり絵と簡潔な説明は好評をいただき、緑蔭禅等の行事でも参加者は楽しそうにぬり絵に取り組んでいました。ぬり絵をしている最中には、絵の内容や僧侶についての質問を受けることもあり、「どうして髪が無いの？」など子どもらしい素直なものから、こちらがドキッとさせられるものまで様々でした。ぬり絵を通して仏教だけでなく普段は話す機会も少ない僧侶も身近に感じることに繋がると思ひました。

また、寺院徒弟が『ナムナムぬりえ』を参考資料の1つとして仏教諸行事に関する自由研究を行い、その中で多くの発見があったというご報告もいただきました。(左下参照)後継者の育成は宗門でも重要とされていますが、寺院徒弟でも日常の中で仏教諸行事を詳しく知る機会はありません。感じます。そこで、ぬり絵を通して仏教や寺院に興味を持つに至った経験は、徒弟自身の仏教徒としての自覚を促し、今後の宗門の発展にも繋がっていくのではないかと考えられます。

仏教に触れることが、子どもの貴重な経験になると共に、次代の仏教を担っていく種を育むことに繋がります。

今後ともその一助となるよう、皆様のお知恵をお借りしながら、新たな企画立案と頒布物の制作を行っていきたくと思ひます。

文／総合企画委員長 日向真学





の

のさますごろくと

た

のしくまなべる

禅かるた

を楽しむ



曹洞宗では、子ども向けに様々な出版物を発行しています。特にその中から『のさますごろくと』『たのしくまなべる禅かるた』を取り上げて紹介します。どちらも『ナムナムぬりえ』と同じく、山形県秀林寺の遠田旭有師がイラストを描かれています。

まず『のさますごろくと』です。「ののさま」とは「ほとけさま」のことです。遠田師の描いた、かわいいイラストがたくさん散りばめられた緑色の包装材の中に、厚めの用紙に両面印刷された盤面と、組み立て式のサイコロとカラフルな8枚の駒(だるまさまの絵柄です)が切り出せる台紙が入っています。盤面用紙の裏側には、すごろくに描かれたイラストの説明があります。お釈迦様やお寺にまつわる道具が説明されていて、とても興味深いです。

例えば、「鬼おにってなあに？ それは、だれでも心の中に持っている『いけない』きもち。おこったり、わがままだったり、いじわるしたり、なまけたりしちゃうとき、きみの心には鬼がひょっこりかおを出しているんだよ」といったふうに、なかなか考えさせられる内容です。

『たのしくまなべる禅かるた』は、遠田師のイラストが描かれた外箱の中に、読み札と取り札、それぞれ45枚ずつが入っています。例えば、「挨拶は友だちつくる魔法だよ」という読み札に対応して、イラストの描かれた取り札をみんなで取る、といった遊び方になっています。

外箱の中には全ての札の詳しい説明をした「しおり」も同封されていて、イラストの内容について、大人がそれを見ながら子どもたちに説明できます。例えば「涅槃の夜静かに開く 沙羅さらかの花」では、「沙羅さらかの木の下に横たわるお釈迦様の周りには、多くの人や動物たちが集まってなげき悲しんだといえます」とあります。読み札の内容や説明書きなど、作り込まれているな、という印象です。

実際に、子どもたちと遊んでみた

織田広報副委員長が『たのしくまなべる禅かるた』を子どもさんとその友人たちと楽しみました。その時の感想です。

「子どもたちは永平寺のことを知っていましたね。『あ！ 福井県の！』とすぐに反応が返ってきました。また、『臘ろうげつ月げつってのは12月のこと、得度式ってのはお坊さんになる儀式』と、1つ1つ子どもたちが取り札を取るたびに説明すると、興味深く聞き入っていました。うちの子どもはまだ得度をしていないので、周りの子どもから『君もしなよ！』と言われていました(笑)。

また、『沙羅さらか』という名前の同級生がいるらしく、『沙羅さらかの花』という文言に興味を持っていました。生活の色んなところに仏教用語が定着していると感じてくれたのではないかな。それに、仏教のかるただと教えたらみんなでも申し合わせて、札を取るときすぐ丁寧ていねいに扱ってくれたのも印象的でした」

「沙羅さらかの花」のような体験を共有し、ひいてはお釈迦様の教えを、楽しんだ人々と共有できることがこのような遊びを行う意義かと存じます。

文／広報委員 田ノ口太悟
写真／広報副委員長 織田秀道

特集「未来のために仏性をはぐくむ」 取材を終えて



今回の特集では、お釈迦様の教えをどのように伝えれば良いのか、という観点から「教育」を見直してみることになりました。私たち大乘仏教の僧侶にとって、人々に一番伝えたいと考えていることは、「世界のあらゆるものの中に仏が存在する」という教えだと思います。そこで特集のタイトルを「未来のために仏性をはぐくむ」にいたしました。

人を「はぐくむ」ことは、とても困難がともないます。知識や技術を教えるのであればことは簡単ですが、何らかの価値観を人に伝え、伝えられた人の中でしっかりと血肉として根付くまではぐくむ。それも強制的にはなく自律的に。ほとんど奇跡に近いようにすら感じます。

冒頭の宮本覚道師へのインタビューで印象深かったのは、宮本師がとことん自分の人間性（人となり）のみで幼稚園の園児と対峙しようとされている点でした。宮本師が仰るように、世の中のほとんどの教師は「夢を大きく持ちなさい」と口では語りながら、自分自身が「大きな夢」を抱えて生きているわけではありません。「野球の〇〇選手が…」「偉い学者の〇〇先生は幼いころ…」と有名な人の人生や語録を引き合いに出してお茶を濁しています。宮本師が特異なのは、そこで有名人を引き合いに出さずに、「じゃあ自分が努力してすごい人になって、子どもにも尊敬されるようになろう」と考え、実行に移したところ。これはなかなか思いつかない発想です。子どもは案外、教師の放つ言葉よりもその態度の方をよく見ているもの。そしてその発想の根底には、ご本人も仰るように教師としてより僧侶としての自覚があるように

感じました。

「かけがえのない時間を分け合った」という体験

人が人と同じ場所におり、同じ時間を過ごすというだけで、不思議な化学変化が生じます。あのとき、友だちと一緒に、何をするつもりだったかよく憶えていないけれどお互いに真剣に何かに取り組んだ、あるいはくだらないことを延々と遊んだという経験が、長期的にはかけがえのない記憶となって人を支えるものです。

更に今回の特集では、教化の取り組みの一つ、『ナムナムぬりえ』のさまざま『たのしくまなべる禅かるた』の紹介を通して感じたのは、「一緒にいる時間を共有すること」の大切さでした。それぞれで学べるものは、お釈迦様の教えの概略に過ぎません。それに血肉を通わせ、その教えを身体に染み込むまで練り上げるためには、他の人とお釈迦様の教えに接し、互いに深め合う必要があります。そこで得たものは長い時間をかけて己の中に沈殿し、ついにはかけがえのない教えとなるのです。

人と共に過ごさなければ学べないものがあります。それは相手への敬意です。三玉の一つに僧（サンガ）が数えられるのは、仏を身中に宿したお互いへの敬意を学ぶためであるように思えてなりません。

取材にご協力いただいた多くの方々に、この場にて厚く御礼申し上げます。

文／広報委員 田ノ口太悟

心理学で読み解く

お経の話

連載最終回となる今号では、他者への思いやりの行い「利行」、感謝の気持ちを行動に示すことを説く「報謝」について考えました。



あなたは「優しさ」を持っている

修証義 第四章 二十三節

窮亀を見、病雀を見しとき

彼が報謝を求めず

唯単えに利行に催おさるるなり

櫻井的解釈

友だちの机から落ちた消しゴムを笑顔で拾った1時間後、その友だちと大ゲンカをする。世界平和を考えた10分後、満員電車で横の人にイライラする。こんな風に「幸せを願える範囲」や「人に優しくできる範囲」は、状況によってすぐに変わります。でも、もし人に優しくできない日があったとしても、優しくしたいという気持ちがある中からなくなることはありません。

脳科学者の茂木健一さんは「優しさは育まれるものではなく、脳の中に既に組み込まれているもの。すべての人間の中には優しさがある」と言います。胎内記憶（お母さんのお腹の中にいた時の記憶）を研究する池川明さんは「子どもはお母さんを幸せにするために、自らお母さんを選んで産まれてくる」と言います。人はそもそも産まれた時点で、優しくても、優しくしたいという気持ちがある中からなくなることはありません。



櫻井将 プロフィール

エール㈱代表取締役。心理学・脳神経科学等をベースとした、人が幸せに働くコミュニケーションを大企業に届けている。その傍ら慶應義塾大学大学院にて研究員としてコミュニケーションの研究を行う。また保育士の資格も保有。

赤ちゃんがお腹が減って泣くことも、立って歩くことも、「周りの人を幸せにしたい」という優しさだと考えてみるとどうでしょう？ 洗い物を手伝うことも、ご飯を食べることも、勉強をすることも。もししたら、あなたがしている全てのことが「誰かを幸せにしたい」という優しさから来ているとしたら。

もし、その優しさにあなた自身が気付いていないとしたら、それはとても勿体ないことです。あなたの中にある優しさにぜひ気付いてあげてください。「落ちたよ」と言っただけでもないかもしれない。「座りませんか？」と席を譲れないかもしれない。それでも、あなたの中には必ず優しさがあります。

1日の終わりに10秒だけいい。大切な人を思い浮かべて、感謝をし、幸せを願ってみてください。すると自分の中に既にある優しさに気づけるはず。そして、その10秒の積み重ねは、あなたが「幸せを願える範囲」や「人に優しくできる範囲」を広げ、人に優しくできる時間を増やしていくことでしょう。



「じぶん日記」のススメ



大川千秋 プロフィール

NAME: KEN CONSOLEの代表、楽天株式会社
 エンプロイメント・エンゲージメント課組織開発コンサルタント。個々が持つ価値や強みのかけ算を大切に、
 ポジティブ心理学や脳科学をベースに個や組織のよりよい「生き方」や幸せな「あり方」を開発・実践している。

修証義 第五章 二十九節

其報謝は余外の法は中るべからず

唯当に日日の行持

其報謝の正道なるべし

大川の解釈

人間関係において「報謝」は、

困っている人を助ける。家族や友人を大切に助ける。独り占めしない。他人の気持ちになつて考える。親切を受けたらありがとうと言う。前々号・前号で取り上げてきた「布施」「愛語」「利行」「同事」の総実践を意味します。

ただ「親切、思いやり、感謝、共感が大切」と頭では理解できなくても、すんなり行動に移せなかつたり、ましてや相手に意地悪をされた時や、自分に余裕のない時などは、必ずしもそうできないこともあるのではないで

しょうか。でも実は、そんな時こそがチャンスなのです！

近年のポジティブ心理学では、「セルフコンパッション」という研究が進んでいます。これは「自分への思いやり、慈しみ、優しさ」などを意味します。「ん？ 思いやりは自分ではなく他人に与えるものでは？」と違和感を感じるかもしれません

が、自分と相手はいつでも相互関係の中に成り立っており、まずは「自分の気持ちを知り、受け入れ、気づきの引き出しを増やす」ことで、相手の状況や気持ちに対しても理解が生じ、思

いやりや感謝の念も自然と育まれていくというわけです。

そこでオススメしたいのが「じぶん日記」。最近起こった出来事について、嬉しかったこと、感謝できたこと、つらかったこと、嫌だったこと、まずは自分の感情を素直な気持ちで観察してみましよう。それはどんな状況で、なぜそうなったのか。どんな気持ちで沸き起こり、どんな行動を取ったのか。また、ご両親や周囲の人はどんな言葉をかけてくれたのでしょうか。

お釈迦様の教えでも「知恩、感恩、報恩」がありますね。まずは自分の周りで起きている事象を知り、相互関係の中で生かされていることを知る「知恩」。そうしているうちに感謝の念が自然と湧いてきて「感恩」、その感謝の気持ちを行動で表すことが出来る「報恩・報謝」。

じぶん日記を続けていくと、物事の成り立ちがふとわかったり、他人の「思いやり」に気づいたり、「怒り」の裏側に「悲しさ」があったり、「意地悪」の裏側に「うらやましさ」があったことに気づき、多くの場面が自分事として捉えられて、意識せずとも「報謝」が実践できるよになるかもしれません。



・今期新設ストックヤード

- ① 北海道管区 (北海道増毛郡 龍淵寺様)
- ② 東北管区 (山形県新庄市 英照院様)
- ③ 関東管区 (千葉県船橋市 宝成寺様)
- ④ 北信越管区 (石川県金沢市 長久寺様)
- ⑤ 東海管区 (愛知県西春日井郡 千松寺様)
- ⑥ 近畿管区 (和歌山県新宮市 宝珠寺様)
- ⑦ 近畿管区 (兵庫県丹波市 宗福寺様)
- ⑧ 中国管区 (島根県松江市 雲松寺様)
- ⑨ 四国管区 (愛媛県今治市 宝蔵寺様)
- ⑩ 九州管区 (佐賀県鹿島市 由照寺様)

・第21期以前に設置されたストックヤード

- ⑪ 岩手県山田町 龍泉寺様
- ⑫ 福島県伊達市 成林寺様
- ⑬ 長野県上田市 長谷寺様
- ⑭ 静岡県裾野市 光明寺様
- ⑮ 三重県熊野市 光明寺様 (津市 四天王寺様に移管)



ストックヤード設置について

(平成31年3月31日現在)

第22期災害復興支援部からの報告

災害復興支援部は、曹洞宗復興支援室分室との連携、その他支援活動と併せて、これまでの経験を生かし、今後起こりうる地震災害や風水害に対し、寺院がどのように備え、対応すべきかを考え提案してきました。今期は日本各地に起こりうる災害に対応すべく寺院に設置するストックヤードの拡大と、インターネットを活用した情報共有を促進してきました。ストックヤードの設置に関しては今期中10箇所の新設を実現することができ、今後、設置管区・寺院との情報交換と、有事の際の相互協力に期待しています。また、災害MLにおいては、災害発災時いち早く情報の提供を求め、MLを通し全国へ情報発信に努めました。

今期も九州北部豪雨、秋田豪雨、大阪北部地震、西日本豪雨、台風、北海道胆振東部地震等々、日本全国において災害が発生しました。倉島会長を中心に被災地へ赴き、当該曹青会・被災寺院へのお見舞い、現地視察、支援体制の打ち合わせを行いました。また、支援活動を行った青年会へは、活動支援金を拠出しました。被災地では各団体と協働が重要である為、全国社会福祉協議会が開催する「災害ボランティアアセンダー運営者研修」へも積極的に参加してきました。

東日本大震災慰霊復興祈願法要では、全国の青年会員が東北の被災地に赴き、被災

地の皆様と共に慰霊・復興への想いを新たにすると共に、ボランティア活動の必要性和重要性を再確認することができました。私たちは今ここに、「全曹青ボランティア憲章」を今一度胸に刻み、これまで培った経験を来期へと、未来へと繋げてまいりたいと思います。

「全曹青ボランティア憲章」 第17期全曹青制定

「全曹青ボランティア憲章」は、菩薩行を實踐する私たち青年宗侶がボランティア活動を推進するにあたり、世の中の苦しみや悲しみと向き合い、寄り添い、地域や社会のさまざまな課題の克服のために意識を共有し、叡智を結集して平和で豊かな社会の実現を願って、以下のように努力する。

● 私たちは仏教徒としての自覚と責任をもち自己の研鑽に務め共に学び合うことを目指します(学び合う)

● 私たちは地域の人々との連帯を深め、互助の心を育む活動をめざします(助け合う)

● 私たちは、宗教、人種、性差、環境あらゆる相違を乗り越え、お互いを理解し合い尊重する活動を目指します(理解し合う)

● 私たちは一人一人の尊いいのちのために、お互い支えあう社会の実現を目指します(支え合う)

東日本大震災慰霊法要



宮城県

宮城県では、角田市自照院様（錦織泰禪住職）で安達顧問の導師のもと東日本大震災慰霊法要を執り行いました。法要では、読経・檀信徒焼香の後、梅花講の皆様が追善供養御和讃をお唱えしてくださいました。安達顧問は「皆様と一緒に参りさせていただいたことに感謝し、今後も続けていきたい」と挨拶しました。

また石巻市では、宮城県曹洞宗青年会主催で慰霊行脚を行いました。石巻市海蔵庵別院様を出発し、市内各所の慰霊碑を巡り大川小学校で行われる慰霊追悼法要に向かう約5キロメートルの行脚予定でしたが、強風と豪雨のため中止し、バスで移動して諷経を勤めました。小学校には200名超の遺族が参列し「ここにまた来年も来るのが私たちに出来ること」との遺族代表の挨拶に、継続していく意義を改めて知る法要となりました。

岩手県では、午前10時より釜石市常楽寺様で、住職の藤原育夫老師が導師を務めて東日本大震災慰霊法要が執り行われました。法要後には藤原老師が雨の中集まった約100人の方々に「1年1年、だんだんと家も建ち、復興の足音が聞こえてきています」と挨拶をされました。

宮古市常安寺様では午前10時より本堂で慰霊法要が行われました。参列者全員で焼香を行った後、住職の阿部文海老師が、お亡くなりになられた檀信徒約80人の方々の名前を読み上げられ参加者全員でご冥福をお祈りしました。

山田町龍泉寺様では、慰霊法要の後、午後2時46分に黙祷が捧げられました。同寺檀信徒の方々に対して倉島会長が挨拶された後、住職の石ヶ森桂山老師がお話しをされ、ご自身のお師匠様を亡くした経験と震災犠牲者の方々とを重ね合わせ、両者のご冥福をお祈りになりました。



岩手県

3月11日午前中、曹洞宗福島県青年会主催の相双地区東日本大震災慰霊碑供養が行われました。風雨の強い悪天候ではありましたが、30人を超える青年僧侶が海岸沿いにある4ヶ所の慰霊碑の前で読経を勤めました。一般の方々もご焼香されました。

午後には、復興祈願納経読経・慰霊諷経が伊達市成林寺様にて、原副会長の導師のもと執り行われました。雨天のため本堂での法要となりました。

成林寺は震災直後、境内に全曹青現地支援活動本部を設置した寺院です。住職の久間泰瑞老師のお話から、支援活動本部に集まった当時の気持ち、本部としての活動を終了した現在も、毎年の慰霊法要という形で残っていることを振り返りました。原副会長の挨拶では、今後も活動の精神を受け継ぐ重要性を確認しました。

本堂での法要後に雨が上がり、納経塔前での諷経を勤めました。有志の青年僧侶と共に、本年も全国よりお寄せいただいたお写経を納経しました。



福島県



東日本大震災慰霊復興祈願法要 復興願う300体の だるまを奉納

平成31年3月8日、福島県伊達市成林寺様の境内に建立されている納経塔の前で、全日本仏教青年会（以下、全日仏青）による東日本大震災慰霊復興祈願法要が執り行われました。

当時のことを思い出させるように今にも雪がちらつきそうな寒さの中での法要となりました。午後2時40分に全日仏青の役員並びに加盟団体会員有志、曹洞宗復興支援室分室のスタッフなど約50人が納経塔前に参集し、大震災発災時刻の午後2時46分に黙祷を捧げた後に倉島理事長を導師として法要が厳修されました。

この度の法要では写経の他に東北の復興



を願うだるまを募集しました。全国から寄せられた約300体のだるまが納経塔前に祀られ、3,000枚を超える写経を奉納しました。法要では声明や念仏供養、御詠歌など全日仏青に加盟する宗派仏青による儀礼が勤められ、全員で観音経を誦誦し回向しました。全国からお寄せいただいた慰霊と復興への想い、そして願いが紡がれ、宗派を超えた祈りが捧げられました。

現地に行ったからこそ被災地の現状や復興の進み具合を肌で感じる事ができました。膨大な数の被災者や被災地域が負った傷はそれぞれに違い、また復興の歩みも様々であります。法要の最後には全員で「東日本大震災 鎮魂の誓い」を唱えました。これからも復興に向け歩む人たちとともに生きるべく、我々青年僧の道しるべをあらためて示してくれる機会でもありました。

文／全日仏青特別委員会 高津徳仁

阪神淡路大震災慰霊法要

25回忌法要

25回忌を迎えた、阪神淡路大震災慰霊法要が執り行われ、平成31年1月16日午後5時より神戸青年仏教徒会事務所におきまして、阪神淡路大震災慰霊速夜法要が執り行われました。翌日の1月17日に「あわせの地藏」と「たかとり教会」の2か所で法要が行

われました。

あわせの地藏前では5時46分に黙祷を行い、僧侶と地元の方々と一緒に犠牲になられた方のお名前が記された碑の前に進み焼香を行いました。

たかとり教会では、午前5時46分に法螺貝の音が響き渡る中、黙祷を捧げました。黙祷が終わると皆で賛美歌を歌い、その後般若心経をお唱えして焼香を行いました。

最後に倉島理事長が「この震災を風化させることなくこれからも祈りを捧げていきたい」と挨拶しました。

文／広報委員 大菅哲哉



「ほほえみの集い」開催しています 曹洞宗寺院後継者相談所

曹洞宗寺院後継者相談所では、定期的に「ほほえみの集い」を開催しています。この集いは皆さまに将来に向けての良いご縁を繋いでいただくことを目的に、出会いの場を提供しようと開催するものがあります。開催案内は曹洞宗公式HP「曹洞禅ネット」をご覧ください。



青年僧侶のおすすめの1冊

『GO』
金城一紀著
角川文庫



この本はとても好きな小説だ。数え切れないくらい読み返し、この物語に影響を受けすぎて、いまだにこの枠内で物事の善悪、人生上の価値観を考え続けている気さえする。

『GO』の主人公、在日朝鮮人から在日韓国人に国籍を変えた高校生の杉原（通称名）は、日本人の女の子、桜井のことが好きである。2人の関係は順調にすすむ。ところが、桜井は、それまで持っていた杉原への好意をある理由から失ってしまう。それは杉原が在日韓国人だからだ、というのだ…。

私にとって、この物語の提起する問題はこうだ。「人間の、自分以外のものへの想像力というのはどこまで伸びるのだろうか？ どこに限界があるのか？ 限界があるとして、我々はその限界を超える努力をすべきなのか？」

杉原は、小説の最初から最後まで、周囲の無理解に悩んでいる。朝鮮学校に進まなかったときは周囲の友達から非

難され、桜井からは在日韓国人だからという理由で好意を拒絶される。逆に杉原からすれば、なぜ皆が「国籍」や「血筋」にこだわるのか、さっぱりわからない。そのせいで皆もずっと嫌な思いをしてきたはずなのに。その「こだわり」が、他のものへの想像力を切断しているはずなのに。

「日本人であるかそうでないか」「健常者であるかそうでないか」「異性愛者であるかそうでないか」。この社会は、他者への想像力がむやみに切断されてしまうような根拠で溢れている。同じ類、同じ種に所属しているかどうか、切断の根拠の別れ目なのだ。その別れ目は驚くほどいい加減だ。合理的な理由などない。その曖昧さは境界に属する人たちの精神を徹底的に蝕み、振り回す。

お釈迦様の教えの魅力は、あらゆるこだわりや銜^{てら}いをぬぐい去り、自由であろうとするところだ。この教えを享^うけて、かつて救われた人がいたはずだ。私もそうであったし、他の人の心の重みを取り除く一助になるため、これからも行じていきたい。

文／広報委員 田ノ口太悟

表紙の話

表紙の写真は精進料理です。味来食堂の講師を務めておられる折橋大貴師にレシピをお願いしました。「皮付き里芋の炊き揚げ餡かけ」「ドライトマトソースペンネ」「舞茸のブルスケッタ」「カブのポタージュ」「苺のタルト」「苺のコンフィチュール」「落花生ドレッシングのサラダ」のメニューです。

撮影／PG 原依里
レシピ考案／折橋大貴
レシピ再現／加野正洪



レシピへのQRコード

賛助費浄納御芳名簿

平成31年1月21日～平成31年3月31日取扱い分

- ◆東京都
6 光寶寺 様
17 龍澤寺 様
115 高安寺 様
173 江岸寺 様
240 東雲寺 様
260 永泉寺 様
345 正法院 様
- ◆神奈川県2
1 本覺寺 様
184 龍鳳寺 様
- ◆埼玉県1
19 宝積寺 様
186 龍泉寺 様
434 安養院 様
- ◆埼玉県2
207 蓮光寺 様
- ◆群馬県
194 善宗寺 様
- ◆栃木県
46 龍昌寺 様
- ◆茨城県
2 天徳寺 様
165 東持寺 様
182 龍心寺 様
- ◆千葉県
1 總寧寺 様
2 宗胤寺 様
7 満蔵寺 様
8 重俊院 様
29 慶林寺 様
74 廣濟寺 様
- ◆山梨県
57 宗禪寺 様
115 海潮院 様
162 法久寺 様
213 方外院 様
507 満福寺 様

- ◆静岡県1
26 宝珠院 様
34 洞慶院 様
101 圓福寺 様
464 正泉寺 様
528 盤石寺 様
- ◆静岡県2
332 龍雲寺 様
362 福泉寺 様
- ◆静岡県3
988 福王寺 様
- ◆静岡県4
1025 龍谷寺 様
1061 保福寺 様
1065 高林寺 様
1105 仙林寺 様
1153 隣海院 様
- ◆愛知県1
7 全香寺 様
55 長全寺 様
70 慈濟寺 様
111 龍興寺 様
120 寶珠院 様
131 天年寺 様
139 祇園寺 様
144 白毫寺 様
147 成道寺 様
313 長松寺 様
375 春江院 様
605 天徳寺 様
625 宝積寺 様
635 永澤寺 様
1129 正寿寺 様
1229 玉林寺 様
- ◆愛知県2
684 花井寺 様
- ◆愛知県3
431 報恩寺 様
560 保福寺 様
1106 寶鏡寺 様

- ◆岐阜県
36 薬王寺 様
162 清楽寺 様
- ◆三重県1
37 四天王寺 様
128 妙泉寺 様
166 陽光寺 様
214 長泉寺 様
269 大蓮寺 様
273 禪龍寺 様
- ◆滋賀県
143 永壽院 様
- ◆京都府
46 榮春寺 様
67 苗秀寺 様
236 善光寺 様
389 萬福寺 様
- ◆大阪府
31 正泉寺 様
69 永興寺 様
98 吉祥院 様
107 實相院 様
- ◆奈良県
9 観音寺 様
- ◆兵庫県1
287 向榮寺 様
375 金剛寺 様
- ◆兵庫県2
170 円通寺 様
- ◆岡山県
29 大通寺 様
131 濟渡寺 様
146 養源寺 様
- ◆広島県
13 延命寺 様
46 双照院 様
63 長福寺 様

- 93 賢忠寺 様
120 寶泉寺 様
167 正安寺 様
178 慶雲寺 様
- ◆山口県
4 寶藏寺 様
25 弘濟寺 様
190 亨徳寺 様
229 妙栄寺 様
- ◆鳥取県
140 瑞仙寺 様
146 妙楽寺 様
- ◆島根2
63 龍覚寺 様
70 完全寺 様
- ◆愛媛県
23 慶正寺 様
146 興雲寺 様
- ◆福岡県
16 喜久寺 様
28 桂木寺 様
- ◆長崎県1
23 智性院 様
78 宝泉寺 様
- ◆宮崎県
54 善栖寺 様
- ◆長野県1
38 耕雲庵 様
243 廣徳寺 様
- ◆長野県2
473 常円寺 様
491 龍勝寺 様
507 泉龍院 様
512 浄蓮寺 様
566 広明寺 様
595 檢校庵 様

- ◆福井県
108 玉祥寺 様
- ◆石川県
75 大覚寺 様
- ◆新潟県1
358 円光寺 様
363 定明寺 様
496 長樂寺 様
- ◆新潟県3
530 花榮寺 様
- ◆新潟県4
6 大榮寺 様
9 東陽寺 様
- ◆福島県
46 龍傳寺 様
93 長光寺 様
101 成林寺 様
110 龍徳寺 様
121 長泉寺 様
139 徳成寺 様
226 常隆寺 様
266 洞雲寺 様
275 性源寺 様
曹洞宗福島県青年会様
梶本浩一 様
- ◆宮城県
94 秀麗齋 様
141 自照院 様
153 徳本寺 様
293 梅溪寺 様
371 頼光寺 様
- ◆岩手県
17 清水寺 様
28 聖福寺 様
43 中興寺 様
81 円城寺 様
83 新仙寺 様
124 西光寺 様
226 長林寺 様

- 245 常楽寺 様
- ◆青森県
100 澄月寺 様
183 大乘寺 様
- ◆山形県1
81 金勝寺 様
113 洞興寺 様
238 西来院 様
- ◆山形県2
337 満福寺 様
344 蔵高院 様
チームおきたま 様
- ◆山形県3
433 祐性院 様
623 歡喜寺 様
639 慶全寺 様
641 宝泉寺 様
671 海禅寺 様
722 永蓮寺 様
- ◆秋田県
96 円通寺 様
166 久昌寺 様
260 松庵寺 様
265 倫勝寺 様
306 洞雲寺 様
321 鏡得寺 様
- ◆北海道1
78 正林寺 様
96 観音寺 様
- ◆北海道2
241 孝徳寺 様
279 西乗寺 様

インターネット
受付分

◆宮城県
永松賢道 様

ボランティア基金感謝録

三重県 四天王寺 様
愛媛県 興雲寺 様
福島県 曹福青カレンダー委員会 様

山形県 朝日町商工会女性部 様
北海道 北海道第一宗務所第一教区布教師会 道心会 様
北海道 北海道第二宗務所第五教区青年会 一心会 様

映画『典座—TENZO—』協賛金感謝録

山梨県 511番 大福寺様

広島県 行友太郎様 (インターネット受付分)
台湾 法鼓山天南寺様 (インターネット受付分)

全国曹洞宗青年会の活動は皆さまの賛助費に支えられております。
この度もご協力いただき誠に有難うございました。

読者の皆様は全曹青にどのような印象をお持ちでしょうか。私を知る全曹青は広報だけですが、向学心の高い委員が多く（そして仕事量も多く）、幅広く学びを得た4年間でした。広報委員会、お勧めです。



副委員長
織田秀道



委員長
西古孝志

第22期広報委員会一丸となって取り組んできた『SOUSEI』もこの号が最後の担当となります。8年間、広報委員会に関わらせていただき、多くの繋がりができました。ここで得たことを活かしながら恩返しできればと思っています。本当に有難うございました。

今期より全曹青に参加いたしました。広報委員会では『SOUSEI』制作のため、自坊では出会えない人と出会い、知ることができなかったであろう事を知り、得難い経験を沢山いただきました。この経験を今後も活かしていきたいと思えます。



委員
菅悠生

広報委員会の ごあいさつ

全曹青
real voice



委員
田ノ口太悟

福岡県曹洞宗青年会から参加しています、田ノ口太悟と申します。様々な方々とめぐりあう機会をいただき、法縁に感謝する日々です。2年間、ありがとうございました。

曹洞宗山梨県青年会から参加いたしました武田信光と申します。

広報委員会では、主に『曹洞宗報』内「そうせい号外」を担当させていただきました。2年間ありがとうございました。



委員
武田信光

委員
大菅哲哉

曹洞宗兵庫県第2宗務所青年会より参加させていただきました。広報委員の活動を通して多くの人々と出会い、そして貴重な経験をさせていただきました。この経験を様々な場所で生かしていきたいと思っています。



委員
小川琢道

この度初めて参加させていただきました。広報委員会を通じ全曹青の活動をより深く知ることができました。何よりも素晴らしい方々との出会いに感謝です。2年間ありがとうございました。

委員
井口昭典

曹洞宗岐阜県青年会より参加させていただきました。「禅を世界へ、そして未来へ」をテーマに広報委員会の活動を通して無数のご縁に支えられていることに感謝しております。まだまだ未来へ繋がる禅を求めて精進してまいります。





最終回

し能く持っ

文と絵／愛知県 正壽寺寺族 早坂 宏香

東の扉から差し込む朝日に照らされるご本尊さま

毎日のお勤めの後に残るお香の匂い四季にお坊さん方がお勤めくださる法要中の天蓋

坐禅の後、一緒にいただくお粥

お寺の日常の中で、私が美しいと感じる場面のいくつかです

朝、東の扉を開かなければ朝日が差し込むことはないし、お勤めをしなければ残り香が漂うこともありません。お寺で美しいと感じるその全てに、僧侶の衣の裾端を感じ美しいと思うのです。

修行道場で仏道と向き合っているらっしゃる修行僧の方々、お寺へ戻られ人々の平和と安寧を願う方丈さ

ま方。それぞれが日々修行を重ねていらっしゃるだけで、美しさを求めていらっしゃるわけではないでしょう。だからこそ、美しいのです。

10年ほど前、手に取った一冊の哲学書にはこう記されていました。

「美とは突き詰めて行けば真に限りなく近いものである」

読んだ当時はそういうものなのか？ くらいにしか感じられませんでした。最近はこの言葉を深く味わえることを嬉しく思っています。

そして、初めて上がった本山で禅師さまよりいただいたお言葉も、私を支えてくださっています。

能く持つや否や

合掌

特報

全国曹洞宗青年会 製作
 空族・富田克也監督 最新作

映画 『典座』
 —TENZO—

決定!! 正式出品



SEMAINE
 DE LA CRITIQUE
 CANNES 2019

第72回 カンヌ国際映画祭

批評家週間「特別招待部門」

今期全曹青が一致団結して取り組んできた、空族・富田克也監督の最新作『典座 —TENZO—』(2019年秋公開予定)が、2019年5月14日(火)より開催される第72回カンヌ国際映画祭におきまして、批評家週間「特別招待部門」への正式出品が決定いたしました!

多くのご協賛もいただき、今回素晴らしい結果となりましたこと、心から感謝申し上げます。フランスでもまた、日本国内メディアでも続々と報道されております。全曹青Facebook、HP『般若』でも随時情報を発信してまいります。

カンヌ国際映画祭、並びに全国の映画館での上映に向けた諸準備が必要となります。更なるご協賛にご協力をお願い申し上げます。

富田克也監督より

この作品は、全国曹洞宗青年会からの依頼を受け作りました。3.11以後、彼らは人々から必要とされ始めたと感じています。そして私たち空族も、『サウダージ』で描いた疲弊し空洞化する現代の日本社会の姿、『バンコクナイツ』の撮影を通じてアジア的な仏教感に触れ、今こそ日本人には信仰が必要なのではないかという思いからこれを引き受けました。カンヌ映画祭からの招待は、まさにご縁を頂いたという事だと思っています。



『典座 —TENZO—』2019年/59分/DCP 公式HP: <http://sousei.gr.jp/tenzo/>
 出演: 河口智賢、近藤真弘、倉島隆行/青山俊董
 監督: 富田克也/脚本: 相澤虎之助、富田克也/撮影・照明: スタジオ石/録音・整音: 山崎巖/編集: 富田克也、古屋卓磨/音楽: 右左口竹の会、Suri Yamuhi And The Babylon Band、Suri Yamuhi And The Babylon Band、NORIKIYO
 題字: 藤田喜彦/デザイン: 今村寛/スチール: 山口貴裕/VFX: 定岡雅人
 製作: 全国曹洞宗青年会/海外担当: 小山内照太郎、大野敦子
 宣伝: 岩井秀世/配給: 空族

